



(沼津)

## 静岡・仁田館遺跡

にったやかた

### 所在地

静岡県田方郡函南町仁田地先

### 調査期間

1100一年(平13)四月～六月

### 発掘機関

(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所

### 調査担当者

鈴木武之・岩本 貴

### 遺跡の種類

居館跡

### 遺跡の年代

古代～近世

### 遺跡及び木簡出土遺構の概要

仁田館遺跡は、狩野川支流の来光川によつて形成された微高地、後背湿地上に立地する。源頼朝挙兵に貢献したと伝えられる仁田忠

常以来、仁田氏歴代の居館として知られ、遺跡の周囲には堀と土塁が遺存している。遺跡東側の丘陵部には、国史跡の柏谷横穴群をはじめとして多くの遺跡が分布している。1100年度は、

館跡の北端部を調査し、近世の礎石建物や古代から中

世の柱穴群・溝・自然流路などを検出した。中・近世の陶磁器をはじめとして、柿経など多種多様な遺物が出土し、伊豆地域における土豪の生活をうかがい知るうえで貴重な資料といえる。

柿経は、館跡の北東隅を流れる古代から中世の自然流路から出土した。建物群の検出面から自然流路へは、高低差三m以上の急激な崖面となっており、崖基底部付近には護岸と推定される長さ五m以上、径三〇cm以上の大木が横たわっており、これが一〇～二〇cm程度の間隔で打たれた径五cm程度の丸杭によって固定されていた。柿経はこの護岸の下位からまとまつた状態で出土した。

### 木簡の釈文・内容

(1) 「妙法蓮華經授記品第六」 (3-6-1) 209×13×0.6 011

(2) 「妙法蓮華經化城喻品第七」 (3-7-1) 225×15×0.6 011

(3) 「薩宝月菩薩月光菩薩滿月菩薩大力菩薩 一へ11」 (1-1-21) 217×14×0.6 011

(4) 「持法緊那羅王名与若干眷屬俱有四百十」 (1-1-34) (216)×11×0.5 019

(5) 「<sup>〔×人〕</sup>若有人礼拜或復但合掌乃至」

・「若人散乱心乃至以一華於供養画像漸見無數仏」

(1-2-206) 209×13×0.8 011

(6) 「利菩薩觀世音薩得大勢菩薩常精進菩」

菩

(1-1-19) 214×13×0.6 011

(7)

〔渴カ〕  
□惱急甚可怖畏此苦難処況復方便 (2-3-269)  
子無知雖聞父誨猶故樂著嬉戲不口」 (2-3-270)

(221)×14×0.6 081

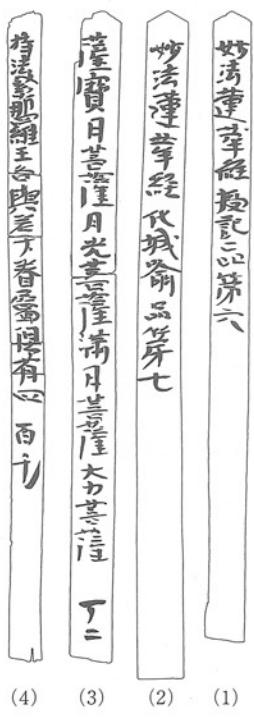
(8)

如無智愚人便自以為足譬如貧窮人往至親友家 九十一

(4-8-120) (219)×14×0.6 081

(括弧内数字は、妙法蓮華經の卷・品・行をあらわす)

柿経は、欠損品を含め八六五枚が確認されている。片面に法華經を写経し、序品第一～授学無学人記品第九の断片が確認されている。板の形状は、上部が圭頭状で、長さ一一・五cm幅一・五cm厚さ〇・六mmを測る（いずれも平均値）。中には裏面が透けて見えるほどに薄いものもあり、いわゆる台鉋の成立以降の所産とすることができよ



(8) (7) (6) (5)

う。資料のうち四枚には両面に写経したものが確認されているが、いずれにも書き損じが認められることから、反対面に正しい経文を書き直したものと推測される。共伴した陶磁器と柿の形状から、一五世紀中葉前後の所産と推測される。

経文の順番を示す巻束番号を法華経全巻を通じて二〇枚おきに記すことが特徴である。また巻束番号の表記が一部不統一であることから(3)「一ノ二」、(8)「九十」など、手本經に記された巻束番号不統一もしくは複数存在の可能性がある。二〇枚一把のうちの一九枚目に相当する柿板に一行の経文を無理やり書き込んでいるものが存在し(7)、柿板があらかじめ一〇枚一把にまとめてあり、写経時の書き損じや板の破損、あるいは元々板が一枚不足していたが、補充する状況になかったことを示していると推測される。したがって、それ以降の巻束番号に狂いは生じていない。

柿経は現在整理中であるが、資料の評価にあたっては、奈良大学の水野正好氏、静岡大学の湯ノ上隆氏のご教示を得た。

## 9 関係文献

- (財)静岡県埋蔵文化財調査研究所「こけら經 函南町仁田館遺跡」  
〔研究所報九五〕二〇〇一年  
同「こけら經が大量に出土 来光川遺跡群・仁田館遺跡」『年報一八』(二〇〇二年)

(岩本 貴)

卷頭言——木簡学会の原点——		鎌田 元一
二〇〇〇年出土の木簡		
概要	平城宮跡 平城京跡左京二条一坊七坪	藤原京跡十二条・朱雀大路
酒船石遺跡	長岡京跡(1)	長岡京跡(2)
京跡左京六条三坊六町	平安京跡左京三条一坊十町	平安
御室仁和寺	大坂城跡	中之島三丁目所在遺跡
(鳥取藩藏屋敷跡)	広島藩大坂藏屋敷跡	加美遺跡
深江北町遺跡 行幸町遺跡	柴遺跡	幡下遺跡
岡遺跡群 大坪遺跡	辻子遺跡	中村遺跡
頬邸跡 汐留遺跡	北条小町邸跡	北条泰時・時
大崎城跡 蜂屋遺跡	新宮神社遺跡	柿田遺跡
猫田遺跡 中野高柳遺跡	洞ノ口遺跡	仙台城本丸跡
遺跡 柳之御所遺跡	石田遺跡	市川橋遺跡
安江町遺跡 打木東遺跡	山形城跡	赤井
奈比古神社前遺跡 麻生谷遺跡	駒ヶ跡	柳之御所遺跡
戸桜田遺跡 西川津遺跡	尾道遺跡	石田遺跡
二丁目遺跡 井相田C遺跡	周防国府跡	山形城跡
城跡(2) 上高橋高田遺跡	観音寺遺跡	本町一丁目遺跡
一九七七年以前出土の木簡	下ノ西遺跡	中前川町
平城宮跡 (七七次)	腰廻遺跡	戸桜田遺跡
積文の訂正と追加 (四)	藏ノ坪遺跡	柳之御所遺跡
平城京跡左京一条三坊十三坪 (二二号)	大猿田遺跡 (一九号)	石田遺跡
田遺跡 (二二号)	東木津遺跡 (二一号)	荒井猫
七世紀木簡の国語史的意義	下ノ西遺跡 (二二号)	戸桜田遺跡
飛鳥池木簡の再検討	犬飼 隆	柳之御所遺跡
新刊紹介 V・L・ヤーニン著『松木栄三・三浦清美訳』	吉川真司	石田遺跡
『白樺の手紙を送りました——ロシア中世都市の歴史と日常生活』渡辺晃宏	頬邸	荒井猫
彙報	五五〇〇円	戸桜田遺跡